

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-162	13-075	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)		
Nightlife, verbal and physical violence among young European holidaymakers: what are the triggers? 欧州青少年における休暇中の暴力、言語的暴力、夜間外出の要因		
執筆者		
Calafat A, Bellis MA, Fernández Del Rio E, Juan M, Hughes K, Morleo M, Becoña E, Duch M, Stamos A, Mendes F.		
掲載誌		
Public Health. 2013 Oct;127(10):908-15. doi: 10.1016/j.puhe.2013.05.010.		
キーワード		PMID
飲酒、暴力、言語的暴力、夜間外出、青少年、休暇		23906607
要 旨		
<p>目的： これまでの研究により夜間外出、薬物使用、暴力が関連することが確立されている。青少年の休暇中の暴力と言語的暴力の要因を検討する。</p> <p>方法： 南欧州の7箇所の空港において英国人、独人の青少年旅行者 6,502 人を対象に身体的暴力、言語暴力、薬物使用、休暇理由、休暇地選択の理由についての質問票調査を実施した。ロジスティック回帰モデルで要因の口論、身体的暴力、言語暴力に対する調整オッズ比 (AOR)(95%CI)を算出した。</p> <p>結果： 休暇中の飲酒は 2/3、口論は 12.4%、けんかは 2.9%の経験率であった。口論、身体的暴力、言語的暴力と関連する要因は、マジョルカ島への旅行 (AOR:口論 2.7,身体的暴力 2.0)、男性(AOR:口論 1.3,身体的暴力 1.7)、薬物使用(AOR:口論 1.5 身体的暴力 2.9)、過去の暴力 (AOR:口論 2.2,身体的暴力 2.9)、飲酒(AOR:口論 2.4,身体的暴力 2.5)、であった。16 歳から 19 歳では、イタリア、クレテ島への旅行をした者、滞在日程の半数以上バーに行った者、バーに行く理由として「飲酒」を選んだ者は、より多くの口論を経験していた。大麻使用はけんかと関連した。一方、バーに行く理由として「友好的な雰囲気」を選んだ者はけんかと負の関連であった。経済状態とバーに行く回数は口論ともけんかとも関連がなかった。</p> <p>結論： 海外で休暇中の暴力、言語的暴力等に注目することは、健康増進、健康被害減少の目的のためにも重要である。</p>		